

1 学校教育目標

かんがえる子 がんばる子 やさしい子 げんきな子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい学校」「通わせたい学校」「勤めたい学校」 ・児童が安心・安全に過ごすことができ、「できた・分かった」を体感できる学校 ・開かれた学校を推進し、保護者・地域が児童の健やかなる成長を実感できる学校 ・教職員が協働し支え合い、児童の笑顔から活力をもらえる学校
○児童・生徒像	・かんがえる子：学び方を身に付け、自分の考えを表現できる子 ・がんばる子：自分に自信をもち、より高い目標に向かって努力を続ける子 ・やさしい子：自分のよさと友達のよさに気付き、互いを認め合う子 ・げんきな子：心身の健康に気を付け、進んで運動に取り組み、安全に心がけて生活できる子
○教師像	○常に向上心をもち、児童と一緒に伸びようと努力する教師 ・教材研究と授業改善に努め、児童に成就感と達成感を与えられる教師 ・優しさ、温かさ、厳しさをもって指導し、児童が「愛されている」と実感させられる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○児童について

明るく素直な子供たちが育っている。行事等特別活動に意欲的に取り組む児童が多く、学校生活をよりよくしようと頑張っている。本校の基本的な生活習慣の合い言葉「かみきそあじ+1」（家庭学習習慣の定着、携行品の確認、聞き方の統一、掃除・片付けの定着、立ち止まり挨拶、時間の厳守+靴のかかと揃え）が定着しており、礼儀正しさが感じられる。

○教職員について

児童に寄り添う指導を行い、教材研究や教材作成を熱心に行う教員集団である。長く本校に在籍している教員は減り、経験年数の浅い教員が多くなった。若手もベテランも向上心があり、積極的に研修を行い、OJTが浸透している。学校全体で児童の規範意識を高めることが課題である。学級経営力を高め、児童のウェルビーイング向上に努める。

○保護者・地域について

両者とも学校教育に対し非常に協力的である。様々な場面でボランティアとして学校を支援してくれている。コミュニティ・スクールとして学校運営にも参画してもらっており、地域の熱い思いが伝わってくる。学校・保護者・地域が「チーム栗北」として、子供の健全育成に取り組むことができる。

【前年度の成果と課題】

○学力の向上

区学力調査の目標通過率は、2教科平均81.8%で達成基準を上回った。国語85.3%、算数78.3%であり、算数の基礎学力定着が課題である。児童のつまずきを解消し基礎学力を定着させるための補充学習等の取り組み工夫が必要である。校内授業研究やOJTなど授業力向上に向けた取り組みは十

分に行うことができた。

○豊かな心の育成

読書マラソンの取組を今年度も継続して行う。児童への肯定的なかかわり方に努め、自己肯定感や思いやり気持ちの育成は目標を達成することができた。体験的な学習を多く取り入れ情操教育に努めていく。安心できる学校環境をつくるため学校全体で児童の規範意識を高めることが課題である。

○健康・体力の保持増進

体育授業の改善を行った。児童の日常的な運動量・動きの種類は減っているため、休み時間を活用し授業以外の運動の機会をつくった。マラソン記録会、縄跳び記録会に向けた練習期間を設定し体力向上を図った。体力テストで都平均を上回る種目が全体の半分となり、前年度よりも増えた。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健康・体力の保持増進	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎基本の確実な定着		6年度の4月区調査で目標通過率 80%、2月定着確認テスト 目標通過率 80%。				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	朝学習 (パワーアップタイム)	全学年 国語 算数	毎週火・ 木曜日 始業前 10分	【指導者体制】担任 【取組のねらい・目的】 全児童対象。国・算週1回実施。算数はAIドリルで反復学習。国語は言語や漢字、対話の指導。 【使用教材】AIドリル	AIドリルの学習ログやワークテストを活用して、児童の達成状況を確認する。	対象単元のAIドリル習熟度を1段階向上させる(D→C、C→B)。または確認テスト80%以上	自己評価の際に記入		

2 継続	放課後 補充教室	全学年 国語 算数	放課後 毎週月・ 金曜日	【指導者体制】 担任・管理職・専科。 【取組のねらい・目的】 つまずきがある児童対象。少 人数指導体制で基礎学力の 定着を目指す。 【使用教材】AIドリル、プリン ト、読解、言語事項、漢字。	AIドリルの学 習ログやワー クテストを活用 して、児童の 達成状況を確認 する。	対象児童の対象 単元のキュビナ での習熟度を1 段階向上させる (D→C、C→ B)。または確認 テスト 80%以上
3 継続	サマース クール	全学年 各学年約 10名程度 国語 算数	夏休み 期間中 の10日 間 各日 50 分	【指導者体制】 担任・管理職・専科 【取組のねらい・目的】 つまずきがある児童対象。 個別指導でつまずきを解消 する。 【使用教材】AIドリル	AIドリルの学 習ログやワー クテストを活用 して、児童の 達成状況を確認 する。	対象児童の対象 単元のキュビナ での習熟度を1 段階向上させる (D→C、C→ B)。または確認 テスト 80%以上
4 継続	家庭学習 強化	全学年 国語 算数 その他	通年実 施 年4回の 強化週 間設定 (6,9,11, 2月)	【取組のねらい・目的】 毎日自主学習を含め 10 分 ×学年の時間を目標に家庭 学習を行う。家庭学習強化 週間を4回実施し、保護者と 連携して習慣化を図る。 【使用教材】AIドリル、漢字ド リル、プリント等	家庭学習状況 調査実施。 6,9,11,2月に1 週間調査。 5,10,1月に1 日調査で状況 確認する。	・1日の学習が 10 分×学年の時間 達成 90%以上 ・1週間の合計目 標時間を達成 90%以上
5 継続	校内研究 の充実	全教員	年4回の 研究授 業 及び日 常活動	【取組のねらい・目的】 伝え合う、話す力の育成を図 り、日常的に対話活動を取り 入れる。低・中・高・専科で4 つの研究授業・協議を行う。 該当学年以外も授業公開し 指導力向上を図る。	6, 1月、児 童へのアンケ ートにより達 成状況を確認 する。	「グループ活動 で積極的に発言 したり、意見を 出かながえたり できる」児童が 80%以上。

自己評価の際に記入

6 継続	小中連携による授業力の向上	全教員 全教科	年7回の連携活動及び日常活動	共通のテーマをもとに授業研究し、公開・協議することで授業力向上を図り、学力向上につなげる。小学校研究授業3回、中学校研究授業1回、合同研修・指導案検討等3回実施。	6, 1月、児童へのアンケートにより達成状況を確認する。	「めあてを理解し見通しをもって学習した」、「振り返りで学習に興味関心をさらにもった」児童 80%以上。	自己評価の際に記入
7 継続	ICTの活用	全教員 全教科	通年	【取組のねらい・目的】 ・タブレットを活用して児童のICTスキルと情報活用能力を育成。 ・AIドリルを活用した基礎基本の定着。 ・ICTを活用した分かりやすい授業を実施。	授業観察 作品 スキル確認 AIドリル使用 状況	・3年生以上で文字入力、ネット検索、高学年で資料作成。 ・児童の毎週 AIドリル活用 100%。 教員の ICT 活用 授業員 100%。	

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分のよさを自覚し、自他ともに尊重し合う行動様式を身に付ける。		区学力調査の質問項目「自分には良いところがある」で 80%以上。 校内調査で「自他を大切にしている」90%以上。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな心を育む読書活動の充実	・学校図書館貸し出し冊数 1人当たり月 5冊 (年間 50冊)。 ・読書マラソンカードで 50冊または 10,000 ページを達成した児童 (のべ人数) 50% (1月末)。	・年2回春と秋に読書旬間を実施する。 ・図書ボランティアによる読み聞かせを年3回程度実施する。 ・図書館との連携を図る。 ・通年で読書マラソンカードに取り組む。	自己評価の際に記入		

自己肯定感の育成 思いやりの心の育成	「かみきそあじ」調査(5, 10, 1月)で自己肯定感に関するアンケート項目で80%。自他の尊重で90%。	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員でほめ育ての実践。 ・WEBQU アンケートの分析と校内体制で支援を行う。 ・体験的学習の充実。 ・ボランティア活動の実践。 	自己評価の際に記入
命をつなぐ千住ネギの栽培活動	4年生が活動の意義を理解し年間を通して、千住ネギを栽培する。種を次年度4年生に引き継ぐ。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色、SDG'sの取組として千住ネギ栽培を引き継ぐ意義を理解させる。 ・花壇ボランティアや農業委員と連携して栽培を行う。 	

重点的な取組事項－3		健康・体力の保持増進		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活習慣の定着と体力の向上	「かみきそあじ」調査3回、生活振り返り週間の調査・結果周知を2回行う。 体力テストの都平均を半分の種目(各種目の学年・男女別)で上回る。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み				
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題
体力の向上 (特に投力)	体力テストの都平均で前年度を上回る。各種目を学年・男女別にした96種目中、半分の48種目で都平均を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> ・投力を高める運動を毎時間の学習過程に組み込む。 ・業間体育(持久走、短なわ)の実施。 ・運動の日常化。 	自己評価の際に記入	
基本的な生活習慣の定着 (特に挨拶・整理整頓)	小中連携校で共通実践 「かみきそあじ」(家庭学習・身に付けるもの・聞き方・掃除・挨拶・時間を守る)調査で90%。	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の生活振り返り実施。 ・毎日の挨拶運動。 ・児童朝会での啓発。 ・調査結果の提示。 		
保健衛生指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・虫歯罹患率15%未満。 ・虫歯未治療率30%以下(年度末)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のハロー6ちゃん教室や3年生の染め出し等歯みがき指導の実施。 ・継続した虫歯治療勧告。 ・年間を通じた手洗いの励行。 		